

愛知県犬山市で発見された国内外来種ムギツク

大仲知樹*・向井貴彦**

First record of non-indigenous freshwater fish, *Pungtungia herzi* (Cypriniformes: Cyprinidae)
collected from Inuyama City, Aichi Prefecture

Tomoki Ohnaka* and Takahiko Mukai**

はじめに

ムギツク *Pungtungia herzi* は三重県・福井県以西の本州、四国、九州に分布するコイ科魚類である。本種は桑野（1982）によって犬山市内から記録されているが、犬山市内の比較的多く確認される同じくコイ科魚類のコウライモロコ *Squalidus chankaensis tsutigae* の地方名がムギツツキ（丹羽，1967）であることから、この記録は誤認されている可能性がある。また記録の基になった標本の所在が明らかでないために記録の真偽も確認できない。筆者らは、このような状況の中、2018年10月6日にムギツクを愛知県犬山市の五条川で1個体、採集し、標本を得たので報告する。

記 録

ムギツク *Pungtungia herzi*（第1図）

採集個体：1個体（全長：72.0 mm，標準体長 58.5 mm）。犬山里山学センター保管（標本番号 IISS-F119）

採集データ：犬山市五条川，2018年10月6日，採集者 大仲知樹。

考 察

桑野（1982）は、本種を「木曽川」と「入鹿池」から報告している。木曽川については、愛北漁協が行ったものの引用と、桑野本人らが行ったものを元に調査結果としている。愛北漁協は1979年の1年間に木曽川の犬山市栗栖桃太郎港から江南市の河田橋までの間で流し網による調査を行い、本種を33.3 kg，3,209個体採集したとしている。同調査で採れた他魚種と比較をすると、オイカワ *Opsariichthys platypterus*（40,440個体）、アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*（38,270個体）、ウグイ *Tribolodon hakonensis*（3,541個体）に次ぐ多さである。桑野本人らが行った調査では、本種のほかに中層を生息域とする小型コイ科魚類では、ヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus*，タモロコ *Gnathopogon elongatus elongatus*，スゴモロコ *Squalidus chankaensis biwae*，デメモロコ *Squalidus japonicus japonicus* を確認できたとしている。

一方、入鹿池については桑野本人らのみが調査を行っており、本種のほかに中層を生息域とする小型コイ科魚類では、モツゴ *Pseudorasbora parva*，タモロコ，ヒガイを確認できたとしているが、ムギツクを含めて、確認できた魚類の数量の記録はない。

大仲（1994）では1990年から1993年にかけて、今回

* NPO 法人犬山里山学研究所。INUYAMA INSTITUTE for SATOYAMA SCIENCES, 364-2 Tonoji Ohguro, Inuyama Aichi 484-0094, Japan

** 岐阜大学地域科学部。Faculty of Regional Studies, Gifu University, 1-1, Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

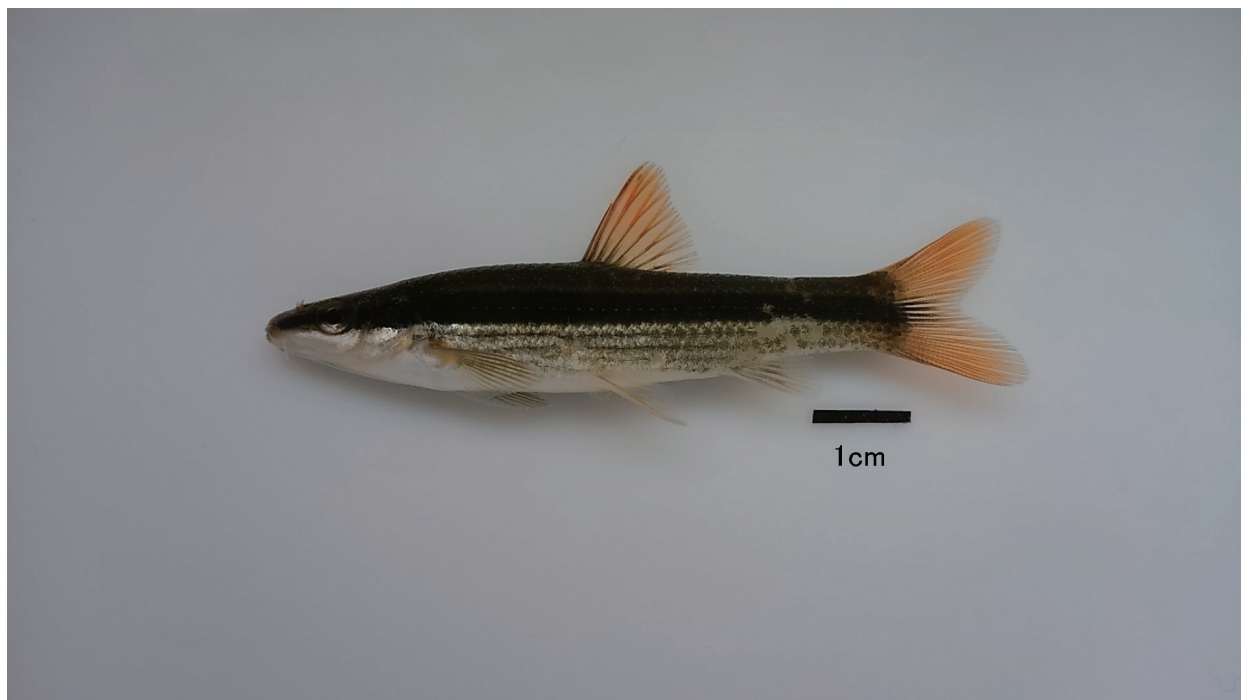
Corresponding author: Tomoki Ohnaka. E-mail: inuyama@satoyama-gaku.jp

原稿受付 2018年11月6日。Manuscript received Nov. 6, 2018.

原稿受理 2018年12月22日。Manuscript accepted Dec. 22, 2018.

キーワード：ムギツク，国内外来種，犬山市。

Key words : *Pungtungia herzi*, non-indigenous, Inuyama City.



第1図. 犬山市五条川で採集されたムギツク *Pungtungia herzi*, HISS-F119.

ムギツクが採れた五条川上流部の魚類相調査を行ったが、本種の生息は確認できなかった。これ以外にも NPO 法人犬山里山学研究所と犬山市が 2004 年から 2018 年の冬季に五条川上流部で毎年行っている水生生物調査や夏季に行っている観察会でも、大仲（1994）の調査結果とほぼ同様の魚種相を得ており、ムギツクの生息は確認できていない。また断続的であるものの、大仲が過去 30 年間行っている五条川や木曽川付近の魚類相調査でも、アブラハヤ *Phoxinus lagowskii steindachneri*、モツゴ、ヒガイ、タモロコ、コウライモロコ、イトモロコ *Squalidus gracilis gracilis* は採集されるが、ムギツクは採集されていない（未発表データ）。

丹羽（1967）の木曽川の魚類相を記した報告においてもムギツクの報告はなく、コウライモロコの犬山市の地方名が「ムギツツキ」であることを記している。さらに向井ほか（2012）は岐阜県下の「ムギツク」や「ムギツツキ」の記録について、コウライモロコの地方名を誤って掲載し、それを引用する形で混乱が生じた可能性を指摘するとともに、岐阜県博物館で「ムギツク」として保管されていた標本を再同定したところタモロコであったことを確認している。

また、木曽川では比較的多く見られるアブラハヤの記録が桑野（1982）にはない。本種は体型もムギツクに似ており、体側に黒の縦帯が表れる。さらに桑野（1982）が木曽川と入鹿池の両方で確認したヒガイは

未成魚期に体側に太く明瞭な黒帯が表れる。そのため、両種とも、一見ムギツクを思わせる特徴を有しており、誤認された可能性がある。

以上のことから、桑野（1982）が引用した愛北漁協の調査結果はコウライモロコの地方名を「ムギツク」と表現したと考えられ、桑野本人らが報告したムギツクはアブラハヤか、ヒガイの未成魚をムギツクと誤認した可能性が高いと考えられた。そのため、愛知県及び岐阜県においてムギツクが過去に分布した可能性は低い。さらにムギツクは日本産淡水魚の中では比較的美しく、飼育も容易で安価なため、観賞魚店などで購入できる。今回採集された個体も、最近放流された飼育個体である可能性が高いと考えられる。

本調査地ではドンコ *Odontobutis obscura* が在来種として生息しており、2000 年代にオヤニラミ *Coreoperca kawamebari* が移入され、定着している。ムギツクはこの二種に托卵することが知られており（長田，2014）、ムギツクが雌雄それぞれ複数以上放流されていれば、これらに托卵し、個体数を増やす可能性が高くなる。

今後、NPO 法人犬山里山学研究所では、五条川上流部における本種やオヤニラミなど国内外来種の分布状況を調査し、美濃加茂市で行われているような（向井，2017）、オヤニラミの駆除作業を検討している。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり，NPO 法人犬山里山学研究所理事長，林 進博士には便宜を図っていただいた，厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 桑野 修，1982. 5 魚類. 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会（編），犬山市史 史料編二 自然. 犬山市，327–346.
- 向井貴彦（編著），2017. 岐阜県の魚類. 岐阜新聞社，岐阜市，216p.
- 向井貴彦・古屋康則・千藤克彦・諸田健一，2012. 岐阜県産魚類目録の再検討. 岐阜県博物館調査研究報告，（33）：29–37.
- 長田芳和（編著），2014. 淡水魚研究入門 水中のぞき見学. 東海大学出版部，秦野市，374p.
- 丹羽 彌，1967. 木曾川の魚. 大衆書房，岐阜市，293p.
- 大仲知樹，1994. 五条川上流部の魚類相. 神奈川県自然保全研究会報告書，（12）：9–12.